

第2回 学校運営協議会 会議録

実施日：令和4年11月8日（火）

場 所：六郷高等学校会議室

1 委嘱状の交付（別紙名簿を参照して校長より）

2 学校運営協議会会長挨拶

日頃より、色々ご協力いただき感謝を申し上げたい。コロナウイルス感染の第8波が心配される中、過日倒産率が最多になったというニュースを見た。周囲のめまぐるしい環境の変化についていけないのが背景にあるようだ。学校現場も周囲の環境に応じて、時代に合った対応をとっていくが大切になる。本日も様々なご意見をよろしくお願ひしたい。

3 校長挨拶

本日はご多忙の中、学校運営協議会にお越しいただきありがとうございます。コロナウイルスに対して、工夫をしながら教育活動を行っている。昨年と比べると、地域との交流はできているのではないかと思います。予断は許さないが、臨機応変に対応していきたい。学校の話題として、自転車競技部の活躍はめざましく、学校にとって励みになっている。吹奏楽部は5人という少人数ながら立派な演奏を先日の定期演奏会で披露してくれた。福祉科では、2年生の校外実習が始まった。ちなみに現1年生では希望者が14名と微増した。おかげ様で3年生の就職活動もほぼ完了した。本日は、忌憚のないご意見をよろしくお願ひしたい。

3 全体会 I

令和4年度上半期の動きについての振り返り（総括）

コロナウイルスによる制限を伴いながらも、全体的には昨年より活動できていると思う（目標と今年度上半期の動きを資料にて確認）。中でも、5月の農業体験学習や清水環境ボランティア、6月のラベンダー園でのボランティア等、美郷町や関係機関の多大なご協力をいただいて実施することができた。昨年注視したインターシップも7月下旬に実施した。美郷町商工会のご協力で実習先を多く確保することができた。8月の夜市ボランティアでは、生徒会中心に計画段階からお世話になり、当日は六高タイムと称するステージ発表の機会までいただいた。9月には就職試験直前対策面接練習で、町内5社のご協力をいただいて実施した。試験に向けたアドバイスを生徒は直接いただくことができた。10月には小学生を招いた福祉体験学習も実施することができた。今年度も下半期があるので、引き続き分科会にてお話をいただきたい。

<意見等>

- ①CSの歩みに専門委員会との関連で学習活動が少ないと思う。各教科や総合的な探究等での外部講師の活用実践についてどうなっているのか。
- ②各教科での実践は、現状あまりできていないので、下半期の課題だと考えている。
- ③美郷フェスタでは、福祉科の生徒さんは学習成果の発表をしっかりとできていたと思う。しかし、スリッパの消毒作業をしているのは、やや気の毒に思った。
- ④当日は、福祉科の皆さんに多方面で下支えをしていただいたことに感謝を申し上げたい。学習発表では、福祉科以外に教養部と福祉部でラベンダーのポプリが会場のお客さんにプレゼントされていた。また、吹奏楽部にも演奏をしていただいたり、全体的にいい刺激を受けている。
- ⑤本校の定期演奏会に、六郷高校吹奏楽部の皆さんにも来ていただいて感謝申し上げたい。
- ⑥先週ドンパルで行われた定期演奏会では、5人での演奏とは思えない聞き応えのある演奏だった。演奏のレベルもさらに上がって感心した。ぜひ、もっと多くの人に知ってもらいたいと思った。

4 各専門部会の取組内容の確認と今後について（各部会に分かれて話し合い）

5 全体会Ⅱ

<各専門部会からの報告>

・学習活動部会

気軽に情報を手に取ることができる時代である反面、情報の偏食が気になっている。映像でしか捉えることができない生徒もおり、活字から情報を得ることに慣れるためにも新聞を活用した授業が効果的ではないだろうか。日頃から新聞購読を習慣化することで、偏った報道から身を守る術を身に付けるだけでなく、就職活動にも有効である。中高生新聞（20円/部）を全生徒に配布し、朝読書や授業で利活用できると良い。また、縦読みすることが苦手な生徒や、新聞の読み方が分からない生徒も多いことから、読み方指導を新聞社に講師依頼することも効果的だ。

吹奏楽部の定期演奏会（11/3）は非常に良かった。今後は、地域の劇団、読み聞かせとコラボするなど、部活でも地域との関わりを持つことが出来るとよい。外部講師を依頼する際、あきた県庁出前講座を利用しているケースが多いが、魅力的な地域の人材に講師になって頂くには、教育振興会で予算措置することが望ましい。予算が厳しい場合は、出前講座以外にも、県立博物館のアイリスの会などの講師派遣事業があるので、活用できると思う。

・地域貢献部会

各目標施策に対する評価、及び新たな取り組みについてアイデアを話し合った。「①地域ボランティアや体験活動の推進」については、各学年部や生徒会、福祉部・教養部等で様々な活動に携わることができた。「②防災に関する地域との活動展開」では、先月美郷町から防災訓練への参加について打診があっ

たものの、日程の都合をつけることができなかった。「③六郷高校からの情報発信」について、美郷町伝統の菓子（笹の葉で巻かれた餅等）の商品化といった案が出された。また、あきた美郷づくり株が企画しているタイ王国のインバウンド消費を狙ったイベントに本校が参加することで、地域貢献・国際交流といった活動に資するのでは、といったアイデアも出された。

・キャリア部会

目標と施策を確認した後、委員の皆様より色々のご意見をいただいた。そこから4点報告したい。1つは、就職前に学ぶ機会を高校生が持つことは有効であるので、様々な経験をしてほしい。2つ目は、外に出て実践的に学ぶことで、本校生徒が就職を決定するポイントを見定められる機会につなげてほしい。3つ目は、入社後のやりとりにおいて対人対応能力を高めていくことは大切である。最後の4点目は、美郷町が提携している企業の方々と交流する機会が確保されると六郷高校生にとって大きな刺激になるのではないだろうか。

<意見等>

①昨今の災害状況から防災教育が重要になってくるので、さらに工夫しながら実践していくべきである。その1つにドローンやロボットの活用をテーマに実施してもいいと思う。生徒にとって、わくわくするような学習の場を作っていただきたい。

②農業体験学習で生徒さんがドローンを間近に見ることができていた。

③ドローンは私有地内であれば、免許がなくても飛ばすことができる。屋内はGPSの関係で良くないが屋外であれば問題なくできると思う。私自身、3台所有しているので、いつでも協力したい。

④予算的なことがあれば、教育振興費を可能な限り活用いただいた上で、各事業に臨んでいただきたい。

6 その他

①2つ学校側に質問したい。来年度の生徒募集の手応えを学校として、どう感じているか。もう1つは前回話題になった地域留学について、その後の動きはどうか。

<校長より>

最初の質問について、現中学3年生の人数に左右されるので、何とも言えない。今年度はおととの中学3年生の数に近いようだ。分からない部分はあるが、生徒募集に努めたい。2つ目について、既に実践している男鹿海洋高校からも話を聞くことができたが、秋田県からの補助や今まで県外出身者を受け入れてきた実績を踏まえると本校とは違う部分がある。いずれ来年度、もしくは再来年度に何か動き出すという段階ではないと考える。

7 学校運営協議会副会長より

コロナ禍であるが、ボランティア等で新しい実践がなされている。その実践が町

の取組みと絡んでいたのが良かったと思う。ボランティアを通して子どもたちを成長させていく、さらには可能性をみつけさせていくことは大切なことである。子どもたちが生き生きと頑張る姿を情報発信していくことをさらに行っていくべきである。最近の本校のホームページでは学校行事や様々な話題がタイムリーに発信されている。中学生も進路を決める時期にさしかかるので、生徒が生き生きと頑張る姿の写真をもっと活用しアピールすることは効果的であり、生徒募集にも上手く作用していくのではないかと思う。外部講師の活用をさらに進め、魅力ある授業の実践を大切にしてほしい。